



春日大社にて・・・
子供達の祈りは家族円満と健康。休憩させて
いただくなどお心遣いいただきました。

あおによし、奈良の都・・・やさしさに囲まれて

3月21日、茨城・福島でホームステイしていた子供達（10名）のために、奈良で劇団「曼珠沙華」のチャリティコンサートが開かれました。

子供達は、春日大社で休憩させていただいたり、東大寺のお水取りで「だったん帽戴かせ」で健康をご祈念していただいたり・・・。

被ばくをしている子供達にとってありがたいものばかりでした。コンサートは2曲だけのダンスでしたが、あたたかい声援をもらっていました。

「チェルノブイリからもう22年もたっているのにまだ放射能があるんですか?」「最低でもあと200年は立ち入り禁止のところに子供達は住んでいます」と、お伝えさせていただくと、みなさん驚かされていました。



大きな大仏に興味津々 平成20年3月16日 奈良新聞より

・・・ベラルーシの子供ら10人来県、二月堂行事にも参加・・・

チェルノブイリ原発事故で国土が汚染される被害を受けたベラルーシ共和国の子供ら十人が十五日、奈良市の東大寺を訪れ、大仏殿を参拝した後、二月堂の伝統行事「だったん帽戴（いただ）かせ」にも参加。梅や桃が満開を迎えた境内を散策し、古都の春を楽しんだ。

訪れたのはベラルーシのブラーギン市、チェチェック市など、特に汚染が深刻とされる地域の子供。茨城県上総市に拠点を置くモダン歌舞伎「曼珠沙華」（藤中清永座長）が毎年、同国の子供を日本に招待しており、今回は7～10歳の男女10人が今月7日に来日。24日まで日本に滞在する。

この日は東大寺整肢園で「曼珠沙華」の公演があり、ベラルーシの子供も民族衣装でダンスを披露。その後大仏殿などを回った。大きな大仏の姿に、チャウキン・マキシム君（9さい）は「仏陀」と大興奮。

二月堂ではみな神妙な顔でだったん帽を被せてもらい、日本の伝統行事にふれていた。



だったん帽戴かせに神妙な顔で参加するベラルーシ共和国の子供たち
・・・15日、奈良市雑司町の東大寺二月堂



99年来日したアンサンブルの子供達と同じ
衣装を借りてきたのですが、子供達の成長が
かばしくないため、ミニスカートがひざだけに。



鹿にとってもびっくり！



東大寺の柱抜け。10人全員通りました！